

第1部 中国

1 マクロ経済動向

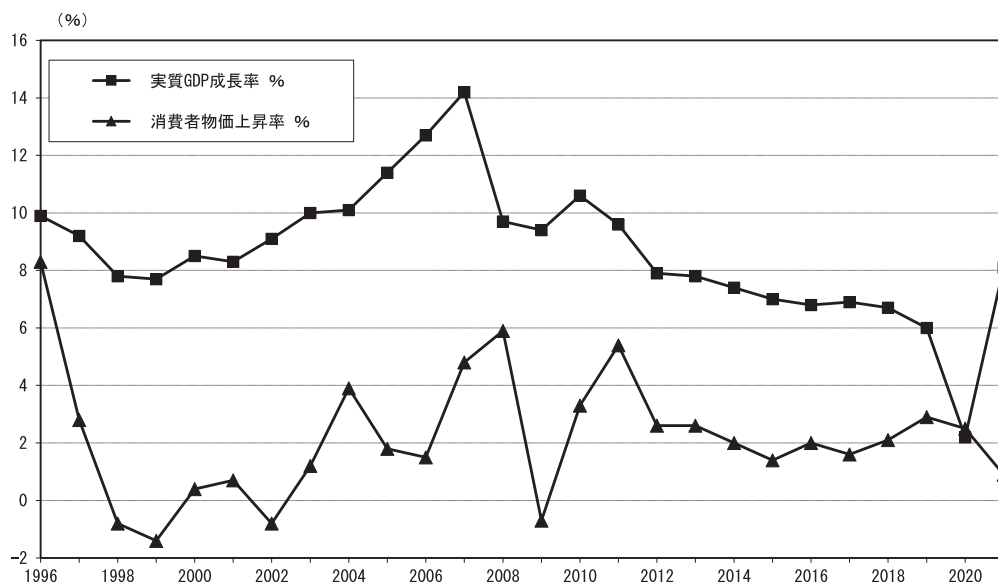
(1) 経済成長の軌跡

① 全国

2021年の名目GDPは114兆3670億元に達し、一人当たりGDPは、8万976元であった。中国経済は新型コロナウイルス感染症拡大による影響から回復し、実質GDP成長率は前年比8.1%となり、2019-2021年2年間の平均成長率¹は5.1%である（図1-1-1）。2021年の実質経済成長率に対するGDP構成要素の寄与をみると、最終消費支出は5.3%、固定資本形成は1.1%、純輸出は1.7%に相当する（図1-1-2）。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大により経済が深刻な打撃を受けたため、最終消費はGDP成長率への寄与度がマイナス0.5%となったが、2021年では中国の経済成長の最大の推進力となった。

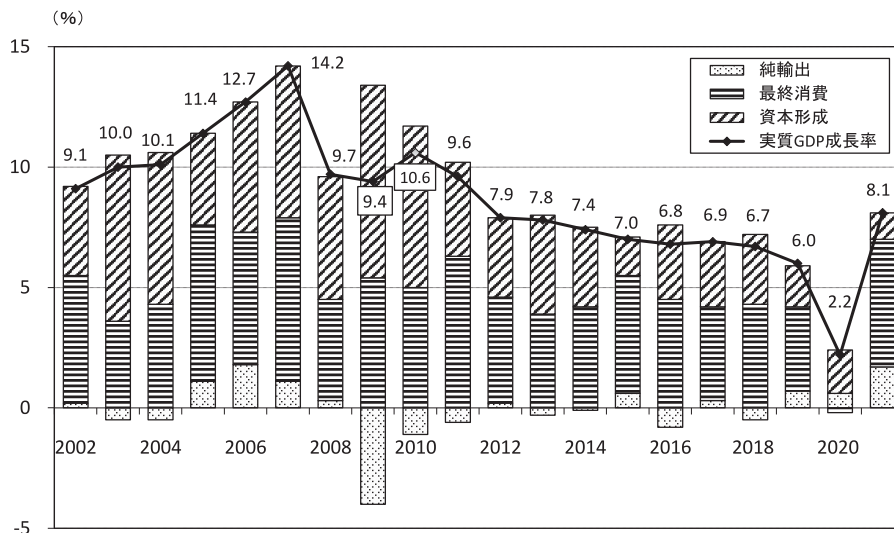
2021年の実質GDP成長率を四半期別にみると、第1四半期の実質GDP成長率は、前年同期比18.3%、第2四半期は同7.9%、第3四半期は同4.9%で、第4四半期は同4.0%であった²。名目GDPに占める第一次産業の割合は7.3%、第二次産業の割合は39.4%、第三次産業の割合は53.3%であり、第二次産業の割合は前年の37.8%より上昇し、第三次産業の割合は前年の54.5%より若干減少した。消費者物価指数（CPI）は前年比0.9%の上昇を示しており、昨年度より1.6ポイント下降した。

図1-1-1 中国の実質GDP成長率と消費者物価指数の上昇率



(出所) 中国国家统计局ホームページ(<http://data.stats.gov.cn>)、中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

図1-1-2 実質GDP成長率の推移と需要項目別寄与度

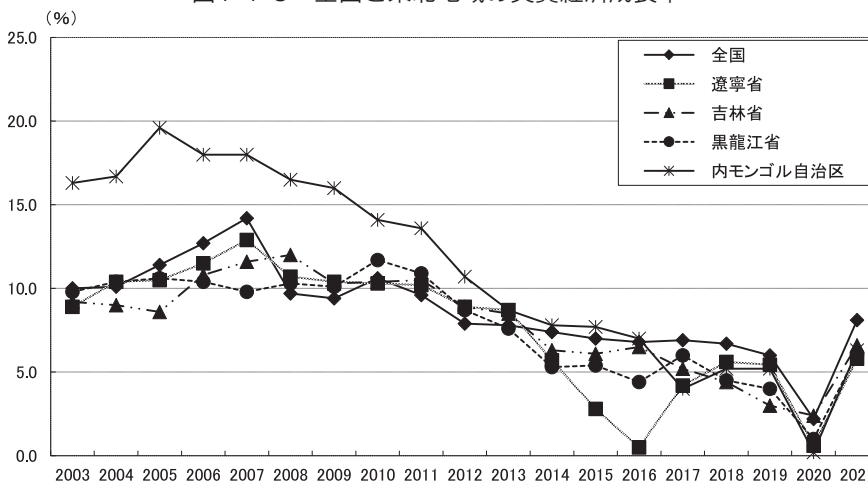


(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

② 東北地域

2021年東北三省と内モンゴル自治区の実質域内総生産経済成長率は全国平均（8.1%）を下回っている。2021年、吉林省の経済成長率は6.6%で東北地域では最も高かった。2008～2013年、東北三省と内モンゴル自治区の域内総生産の平均成長率はほぼ全国平均を上回る数値で成長していたが、2014年から次第に低下した（図1-1-3）。2021年の全国31の省・直轄市・

図1-1-3 全国と東北地域の実質経済成長率



(出所) 遼寧省統計局『2021年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月、吉林省統計局『吉林省2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年6月、黒龍江省統計局『2021年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年2月、各省・自治区『統計年鑑』2021年版、中国国家统计局ホームページ (<http://data.stats.gov.cn>) より作成

自治区の実質域内総生産成長率を見ると、黒龍江省と遼寧省はそれぞれ第29位、第30位で、青海省を除き他の省より低かった。

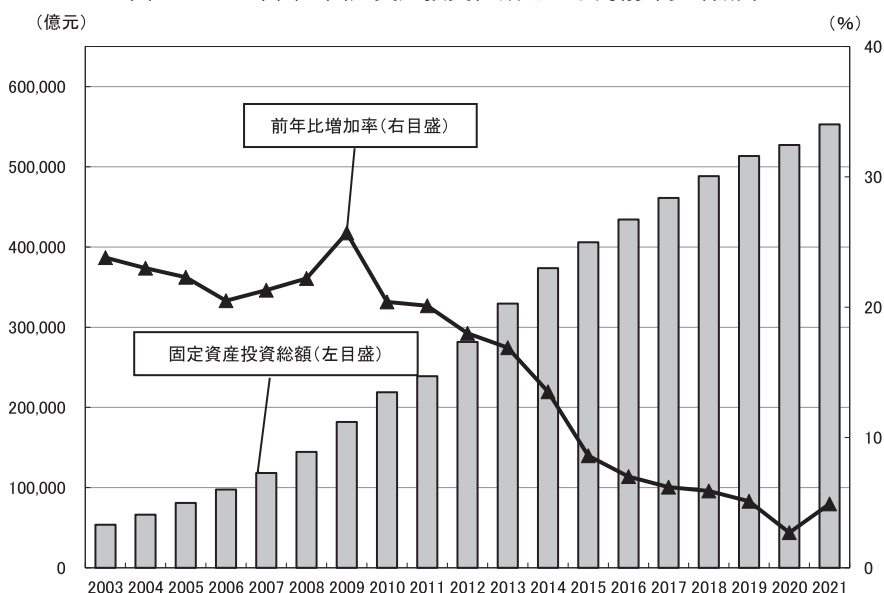
(2) 投資

① 全国

中国の固定資産投資総額は毎年増加しているが、2015年から固定資産投資の増加率は1桁まで低下した(図1-1-4)。2021年に中国で実行された固定資産投資の総額は、名目値で前年比4.9%増の55兆2884億元であり、増加率は2020年の同2.7%を上回っている。そのうち、農家を除く固定資産投資額は、前年比4.9%増の54兆4547億元であった。地域別にみると、東部地域は同6.4%増、中部地域は同10.2%増、西部地域は同3.9%増、東北地域は同5.7%増となる。

また、産業別にみると、2021年第二次産業の固定資産投資額は16兆7395億元で前年比11.3%増となり、2020年の同0.1%から回復した。第一次産業と第三次産業の固定資産投資額はそれぞれ同9.1%、2.1%伸びた³。

図1-1-4 中国の固定資産投資総額および対前年比増減率



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

(注) 中国国家统计局は経済センサス、投資統計制度方法の改革などにより、2021年版の『中国統計摘要』で2003年以降の全国の固定資産投資総額および前年比増減率を修正している。そのため、『2020北東アジア経済データブック』の数値より小さくなった。

② 東北地域

2021年の東北地域の固定資産投資額(農家を除く)をみると、遼寧省は前年比2.6%増、吉林省は同11.0%増、黒龍江省は同6.4%増、内モンゴル自治区は同9.8%増となっている。一方で、2021年の遼寧省の固定資産投資額の増加率は低迷しており、全国の増加率(4.9%)より低い。吉林省、黒龍江省、内モンゴル自治区の増加率は全国の増加率を上回っている。

表1-1-1 東北地域の固定資産投資額（農家を除く）・増加率 (億元)

年	遼寧省	吉林省	黒龍江省	内モンゴル自治区
2009	12,292.5	6,411.6	5,028.8	7,336.8
2010	16,043.0	7,870.4	6,812.6	8,926.5
2011	17,726.3	7,441.7	7,475.4	10,365.2
2012	21,836.3	9,511.5	9,694.7	11,875.7
2013	25,107.7	9,979.3	11,453.1	14,217.4
2014	24,730.8	11,339.6	9,829.0	17,591.8
2015	17,917.9	12,705.3	10,182.9	13,702.2
2016	6,692.2	13,923.2	10,648.3	15,080.0
2017	6,676.7	13,283.9	11,292.0	14,013.2
固定資産投資額（農家を除く）増加率（%）				
2018	3.9	1.4	-4.7	-28.3
2019	0.3	-16.2	6.3	6.7
2020	2.6	8.3	3.6	-1.5
2021	2.6	11.0	6.4	9.8

（出所）中国国家统计局『中国統計摘要』各年版より作成

（注）①2010年以前は都市部固定資産投資額、2011年からは農家を除く固定資産投資額。②2021年版の『中国統計摘要』は経済センサス、投資統計制度方法の改革などにより、2003年以降の全国の固定資産投資総額および対前年増加率を修正している。各省の修正後の固定資産投資額が公表されていないため、2003-2017年の各省の固定資産投資額は2018年まで公表された数値である。そのため、全国と各省の固定資産投資総額の統計範囲は一致していない。また、2018年より、中国国家统计局は各省の固定資産投資総額を公表しなくなった。

各省の産業別投資額の状況をみると、遼寧省は第一次産業の投資が前年比5.6%減、第二次産業が同5.1%増、第三次産業が同1.7%増となった⁴。吉林省は第一次産業の投資が同13.7%増、第二次産業が同10.9%増、第三次産業が同11.0%増となり⁵、黒龍江省は第一次産業の投資が同5.6%増、第二次産業が同14.5%増、第三次産業の投資が同2.2%増となり⁶、内モンゴル自治区は第一次産業の投資が同2.4%増、第二次産業が同21.1%増、第三次産業の投資が同2.4%増となった⁷。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、吉林省を除く他の3省・自治区は第二次産業への投資額の増加率はマイナスとなったが、2021年の各省の第二次産業への投資は回復し、投資額の増加率はいずれも2020年のそれを上回っている。

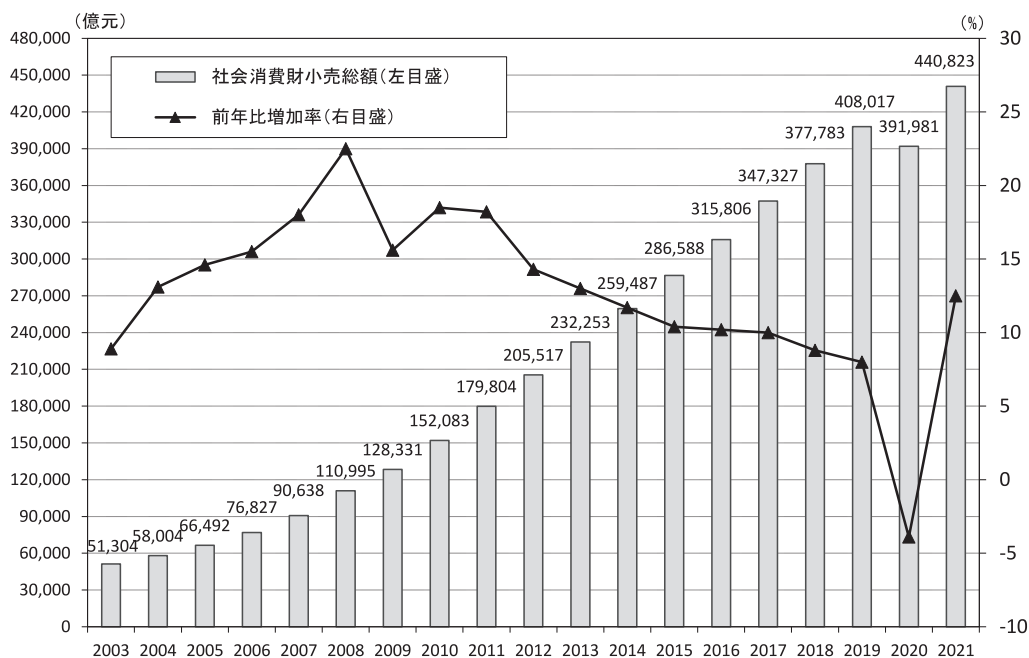
（3）消費

① 全国

2021年の中国における消費動向を示す指標である社会消費財小売総額（社会消費品小売総額）は、前年比12.5%増の44兆823億元であり、2019-2021年2年間の平均成長率は3.9%であった。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響で社会消費財小売総額は大きく減少したが、2021年にリバウンド消費により増加した（図1-1-5）。

消費地別にみると、都市部の消費は同12.5%増の38兆1558億元、農村部の消費は同12.1%増の5兆9265億元である。消費形態別にみると、商品の小売総額は同11.8%増の39兆3928億元、飲食業売上総額は同18.6%増の4兆6895億元であった。

図1-1-5 中国の社会消費財小売総額および前年比名目伸び率



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

② 東北地域

2021年における東北三省の社会消費財小売総額は、遼寧省が前年比9.2%増の9783.9億元、吉林省は同10.3%増の4216.63億元、黒龍江省は同8.8%増の5542.9億元となった。東北三省の社会消費財小売総額の増加率は全国平均増加率（12.5%増）を下回っている。

2 産業・労働

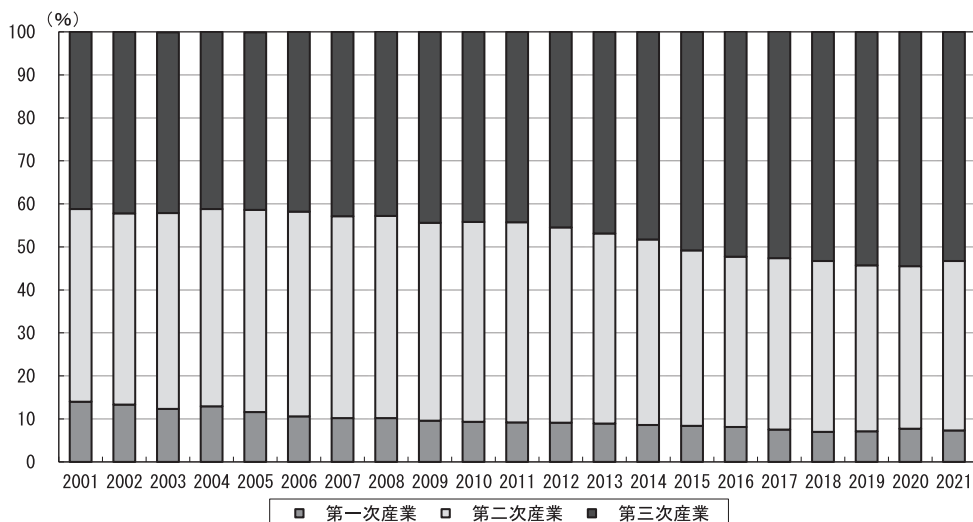
(1) 産業

① 全国

長期的にはGDP構成比から中国の産業構成をみると、2000年以降第一次産業の比率は減少し続け、第二次産業の比率は横ばい、第三次産業の比率は上昇していたが、近年は第一次産業の比率は横ばい、第二産業の比率が減少し、その分第三次産業の比率が上昇しており、その傾向に変化はない。

2021年の名目GDPを産業別にみると、第一次産業は8兆3086億元（前年比7.1%増）、第二次産業は45兆904億元（同8.2%増）、第三次産業は60兆9680億元（同8.2%増）であった。GDP全体に占める第一次産業の比率は前年より0.4ポイント低い7.3%となり、第二次産業の比率は前年より1.6ポイント高い39.4%となっていて、第三次産業の比率は前年より1.2ポイント低い53.3%である（図1-2-1）。

図1-2-1 GDP構成比からみた全国の産業構成



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

さらに、年間の全工業の付加価値は、37兆2575億元で、前年比9.6%増となった。一定規模以上の工業企業（年売上高2000万元以上の企業）の付加価値は、前年より9.6%増え、そのうち国有及び政府過半出資企業は前年比8.0%増、株式制企業は同9.8%増、外資系および香港・マカオ・台湾系企業は同8.9%増、私営企業は同10.2%増であった。

一定規模以上の工業のうち、農産物・副産物食品工業の付加価値は前年より7.7%増、繊維業は1.4%増、化学原料と化学製品製造業は7.7%増、非金属鉱物製品業は8.0%増、黑色金属冶金圧延加工業は1.2%増、汎用設備製造業は12.4%増、専用設備製造業は12.6%増、自動車製造業は5.5%増、電気機械・器材製造業は16.8%増、コンピュータ・通信その他電子設備製造業は15.7%増、電力熱生産と供給業は10.9%増となった。

主要原材料のうち、粗鋼生産は10億3524万トン（前年比2.8%減）、鋼材は13億3667万トン（同0.9%増）、セメントは23.8億トン（同0.4%減）であった。工業製品のうち、自動車生産台数は、2652.8万台（同4.8%増）、携帯端末は16億6152万台（同13.3%増）、パソコンは4億6692万台（同23.5%増）となった。米中貿易戦争の影響などによって、2018年以降に引き続き中国の自動車、携帯端末の生産量が減少したが、2021年にプラスに転じている。

② 東北地域

2021年における遼寧省の名目地域内総生産（GRP）は2兆7584億元で、ほぼ東北三省全体の半分を占めている。産業構造を見ると、遼寧省は第一次産業の比率は8.9%であり、東北地域の中で最も低いものの、全国平均よりは高い。第二次産業の比率は39.4%で、内モンゴル自治区より低いものの、吉林省及び黒龍江省よりは高い。第三次産業の比率は51.6%である（表1-2-1）。さらに、遼寧省の一定規模以上工業の付加価値は前年比4.6%増で、そのうち汎用設備製造業は14.1%増、専用設備製造業は2.2%増、自動車製造業は8.4%増となった。

表1-2-1 2021年全国および東北地域の産業構成比

	GDP・GRPからみた産業構成比 (%)		
	第一次産業	第二次産業	第三次産業
全 国	7.3	39.4	53.3
遼 寧 省	8.9	39.4	51.6
吉 林 省	11.7	36.0	52.2
黒 龍 江 省	23.2	26.7	49.9
内モンゴル自治区	10.8	45.7	43.5

(出所) 遼寧省統計局『2021年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月、吉林省統計局『吉林省2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年6月、黒龍江省統計局『2021年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年2月、中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

(注) 遼寧省は統計公報のデータから構成比を算出した。

吉林省の2021年名目GRPは、1兆3236億であった。産業構成比は第一次産業が前年の12.6%から11.7%に下降した。第二次産業比率は前年の35.1%から36.0%に上昇し、第三次産業は前年の52.3%から52.2%に下降している。一定規模以上工業における付加価値は前年比4.6%増となり、年間利潤額は前年比で30.6%増加した。一定規模以上の工業のうち、重点産業（自動車製造・石油化学工業・食品産業・情報産業・医薬品製造業・冶金建材産業・エネルギー産業・繊維業）の付加価値は前年より5.2%増であった。

2021年における黒龍江省の名目GRPは、1兆4879億に達し、第一次産業の構成比は、前年より下降して23.2%、第二次産業の比率は上昇して26.7%、第三次産業の比率も上昇し49.9%となっている。一定規模以上の工業企業の付加価値は、前年比で7.3%増加している。そのうち、農産物・副産品食品工業の付加価値は前年より6.9%増、汎用設備製造業は10.7%増、自動車製造業は23.0%増となった。

2021年の内モンゴル自治区の名目GRPは2兆514億に達した。第一次産業比率の過去10年間の推移は9%台だった、2017年以降徐々に上昇する傾向がある。しかし、2021年における第一次産業の比率は前年の11.7%から10.8%に下降した。第二次産業比率は前年の39.6%から45.7%に上昇し、第三次産業は前年の48.8%から43.5%に下降している。一定規模以上の工業企業の付加価値は、前年比6.0%増加、年間利潤額は前年比150%増加した。業種別の付加価値を見ると、鉱業は3.4%増、製造業は11.3%増、電気、熱供給、ガス、水道事業は1.3%増、食品製造業は6.0%増となっている。

(2) エネルギー

2021年における一次エネルギーの生産量は、標準炭換算で43億3000万トンであった。その構成比は石炭が67.0%、石油が6.6%で、天然ガスが6.1%、その他エネルギーが20.3%であった。一方でエネルギーの消費量を見ると52億4000万トン（標準炭換算）となり、構成比は石炭が56.0%、石油が18.5%、天然ガスが8.9%、その他エネルギーが16.6%であった。1990年代から中国のエネルギー需要は供給を上回り、急速な経済発展に伴って需給のギャップが広がる一方となっている。それ以外には、化石燃料の構成比が低下傾向にあり、それに伴い再生可能エネルギーなどを含むその他エネルギーの割合が増加していることが特徴的である（表1-2-2）。

表1-2-2 中国のエネルギー生産量と消費量

年	生産量 (標準炭万吨)	構成比 (%)				消費量 (標準炭万吨)	構成比 (%)			
		石炭	石油	天然ガス	その他 エネルギー		石炭	石油	天然ガス	その他 エネルギー
1996	133,032	75.0	16.9	2.0	6.1	135,192	73.5	18.7	1.8	6.0
1997	133,460	74.2	17.2	2.1	6.5	135,909	71.4	20.4	1.8	6.4
1998	129,834	73.3	17.7	2.2	6.8	136,184	70.9	20.8	1.8	6.5
1999	131,935	73.9	17.3	2.5	6.3	140,569	70.6	21.5	2.0	5.9
2000	138,570	72.9	16.8	2.6	7.7	146,964	68.5	22.0	2.2	7.3
2001	147,425	72.6	15.9	2.7	8.8	155,547	68.0	21.2	2.4	8.4
2002	156,277	73.1	15.3	2.8	8.8	169,577	68.5	21.0	2.3	8.2
2003	178,299	75.7	13.6	2.6	8.1	197,083	70.2	20.1	2.3	7.4
2004	206,108	76.7	12.2	2.7	8.4	230,281	70.2	19.9	2.3	7.6
2005	229,037	77.4	11.3	2.9	8.4	261,369	72.4	17.8	2.4	7.4
2006	244,763	77.5	10.8	3.2	8.5	286,467	72.4	17.5	2.7	7.4
2007	264,173	77.8	10.1	3.5	8.6	311,442	72.5	17.0	3.0	7.5
2008	277,419	76.8	9.8	3.9	9.5	320,611	71.5	16.7	3.4	8.4
2009	286,092	76.8	9.4	4.0	9.8	336,126	71.6	16.4	3.5	8.5
2010	312,125	76.2	9.3	4.1	10.4	360,648	69.2	17.4	4.0	9.4
2011	340,178	77.8	8.5	4.1	9.6	387,043	70.2	16.8	4.6	8.4
2012	351,041	76.2	8.5	4.1	11.2	402,138	68.5	17.0	4.8	9.7
2013	358,784	75.4	8.4	4.4	11.8	416,913	67.4	17.1	5.3	10.2
2014	362,212	73.5	8.3	4.7	13.5	428,334	65.8	17.3	5.6	11.3
2015	362,193	72.2	8.5	4.8	14.5	434,113	63.8	18.4	5.8	12.0
2016	345,954	69.8	8.3	5.2	16.7	441,492	62.2	18.7	6.1	13.0
2017	358,867	69.6	7.6	5.4	17.4	455,827	60.6	18.9	6.9	13.6
2018	378,859	69.2	7.2	5.4	18.2	471,925	59.0	18.9	7.6	14.5
2019	397,317	68.5	6.9	5.6	19.0	487,488	57.7	19.0	8.0	15.3
2020	407,295	67.5	6.8	6.0	19.7	498,314	56.9	18.8	8.4	15.9
2021	433,000	67.0	6.6	6.1	20.3	524,000	56.0	18.5	8.9	16.6

(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

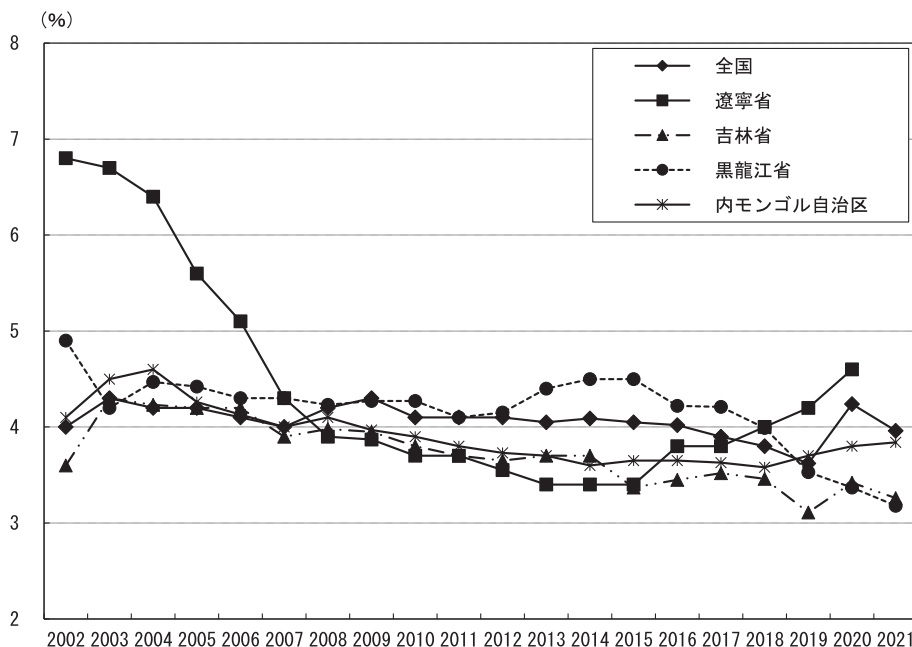
(3) 労働

2021年末の全国の就業者数は7億4652万人で、うち都市の就業者数は4億6773万人であり、農村の就業者数は2億7879万人であった。2021年における就業者の構成比を産業別にみると、第一次産業の就業者数は1億7072万人で、構成比は22.9%と前年の23.6%から低下し続けた。第二次産業の就業者数は、2億1712万人で、構成比が29.1%と前年の28.7%よりは上昇している。第三次産業の就業者数は3億5868万人で構成比が48.0%と前年の47.7%から拡大を続けている。

失業情勢については、2021年末の都市部の登録失業者数が1040万人で、都市部登録失業率は3.96%と前年の4.24%よりは0.28ポイント減少した(図1-2-2)。2018年末から全国都市調査失業率も新たに発表されるようになり、2021年における中国都市調査失業率は5.1%であった。調査失業率は全市の常住経済活動人口に占める失業条件に合致した人口の比率で、登録していない失業者も統計に含めた数字となっており、登録ベースの登録失業率より実態を反映したのものとなっている。ただし、調査失業率も農村部の失業者は含まれておらず、都市・農村部すべてを含めた実質失業率は依然として、公表されている指標を大きく上回るものと推測される。

図1-2-2が示すように、2021年の東北地域における都市登録失業率は、遼寧省を除けば、内モンゴル自治区が最も高い。しかし、過去10年間をみると、遼寧省を除いて、他の3つの省の失業率は減少傾向を示している。2020年には、新型コロナウイルスの影響により、東北地域の失業率はわずかに上昇したが、ほとんど変化はないと言える。2021年、吉林省の都市部登録失業率は3.26%と前年の3.42%より0.16ポイント減少、黒龍江省は3.18%と前年の3.37%より0.19ポイント減少、内モンゴル自治区は3.84%と前年の3.80%より0.04ポイント増加となっている。

図1-2-2 全国および東北地域の都市部失業率



(出所) 各省・自治区『統計年鑑』各年版、中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版、吉林省統計局『吉林省2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年6月、黒龍江省統計局『2021年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年2月より作成

3 対外経済関係

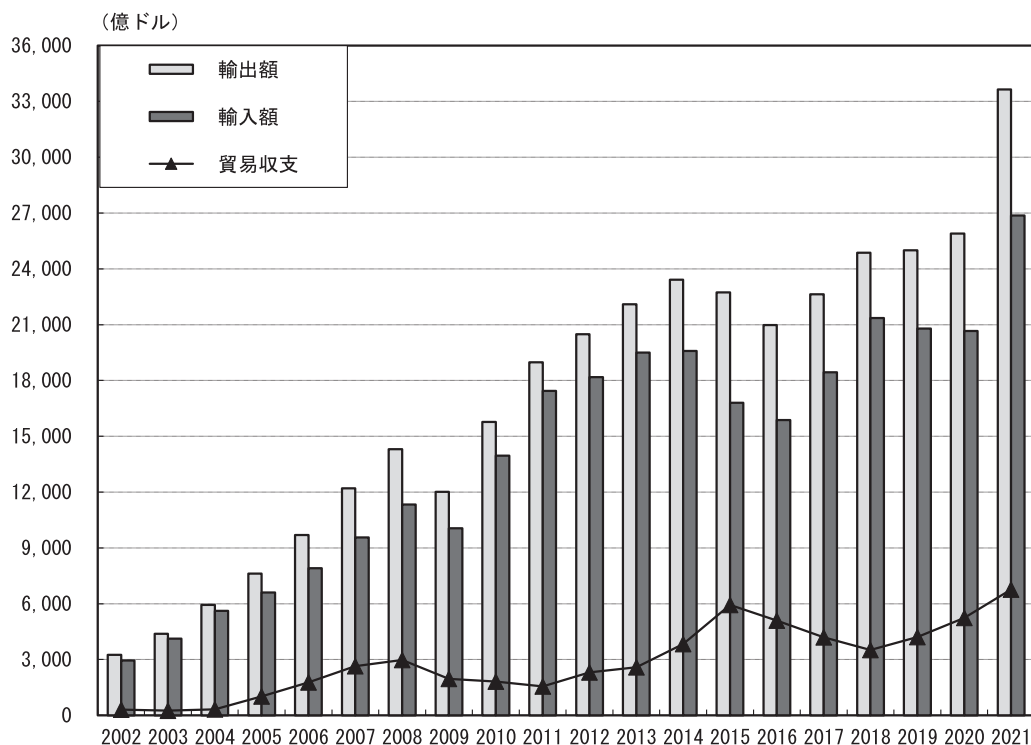
(1) 対外貿易

① 全国

2021年における中国の対外貿易総額は前年比30.0%増の6兆514億9000万ドルとなり、大幅に拡大した。そのうち、輸出が同29.9%増の3兆3639億6000万ドル、輸入が同30.1%増の2兆6875億3000万ドルであった。輸出については、コロナ後、各国の景気刺激策に伴う海外需要の拡大、輸入については、資源・エネルギーの価格上昇の影響等が考えられる。貿易収支は6764億3000万ドルの黒字で前年比29.1%の増加となった(図1-3-1)。

2021年の貿易は、ASEANとの取引が最も多かった。貿易総額は28.1%増の8782億ドルで、そのうち輸出は同26.1%増の4837億ドル、輸入は同30.8%増の3945億ドルであった。第2位はEUで、貿易総額は27.5%増の8281億ドル、うち輸出は前年比32.6%増の5182億ドル、輸入は同19.9%増の3099億ドルであった。第3位は貿易摩擦を抱える米国で、貿易額は28.7%増の7556億ドル、うち輸出は同27.5%増の5761億ドル、輸入は同32.7%増の1795億ドルであった。第4位はラテンアメリカで、貿易総額が同41.1%増の4516億ドル、輸出は同52.0%増の2290億ドル、輸入は同31.4%増の2226億ドルとなった。第5位は日本で、貿易総額は同17.1%増の3714億ドル、輸出は同16.3%増の1658億ドルで、輸入は同17.7%増の2056億ドルであった。第6位は韓国で、貿易総額は同26.9%増の3624億ドル、そのうち輸出は同32.4%増の1489億ドル、輸入は23.3%増の2135億ドルであった⁸。

図1-3-1 中国の直接投資受入額（実行ベース）の推移



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

② 東北地域

2021年の東北三省と内モンゴル自治区の輸出入総額は前年比27.8%増の1927億ドルで、全国の輸出入額の3.2%を占めている（表1-3-1）。そのうち輸出は同34.7%増の711億ドル、輸入は同24.1%増の1217億ドルであった。

表1-3-1 東北三省および内モンゴル自治区の輸出入額の推移 (億ドル)

年	遼寧省			吉林省			黒龍江省			内モンゴル自治区		
	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支
2001	111.1	88.0	23.1	14.6	16.7	▲2.1	16.1	17.7	▲1.6	11.4	14.1	▲2.7
2002	123.7	93.7	29.9	17.7	19.3	▲1.7	19.9	23.6	▲3.7	13.7	16.3	▲2.6
2003	146.3	119.3	27.0	21.6	40.1	▲18.5	28.7	24.6	4.2	14.4	16.7	▲2.3
2004	189.2	155.2	34.0	17.2	50.8	▲33.6	36.8	31.1	5.7	16.8	23.7	▲6.9
2005	234.3	175.7	58.6	24.7	40.6	▲15.9	60.7	35.0	25.7	20.6	31.0	▲10.4
2006	283.2	200.7	82.5	30.0	49.2	▲19.2	84.4	44.2	40.2	21.4	38.2	▲16.8
2007	353.2	241.5	111.7	38.6	64.4	▲25.8	122.6	50.4	72.2	29.5	48.0	▲18.5
2008	420.7	303.6	117.1	47.7	85.6	▲37.9	168.1	63.2	104.8	35.9	53.3	▲17.3
2009	334.1	295.2	39.0	31.2	86.2	▲54.9	100.8	61.5	39.3	23.2	44.6	▲21.4
2010	431.0	376.1	54.9	44.8	123.7	▲78.9	162.8	92.3	70.5	33.3	54.0	▲20.6
2011	510.4	449.9	60.5	50.0	170.6	▲120.7	176.7	208.5	▲31.8	46.9	72.4	▲25.6
2012	579.6	461.3	118.3	59.8	185.8	▲126.0	144.4	231.6	▲87.2	39.7	72.9	▲33.2
2013	645.2	499.6	145.6	67.4	190.9	▲123.5	162.3	226.5	▲64.2	40.9	79.0	▲38.1
2014	587.5	552.5	35.0	57.8	206.0	▲148.2	173.4	215.7	▲42.3	63.9	81.6	▲17.7
2015	507.1	452.4	54.7	46.1	142.6	▲96.5	80.4	129.8	▲49.4	56.5	70.8	▲14.3
2016	430.6	434.9	▲4.3	42.0	142.5	▲100.5	50.4	115.0	▲64.6	44.0	72.4	▲28.4
2017	449.0	545.5	▲96.5	44.3	141.1	▲96.8	51.4	136.7	▲85.3	49.4	89.6	▲40.2
2018	487.9	658.1	▲170.2	49.4	157.3	▲107.9	44.5	219.9	▲175.4	57.5	99.4	▲41.9
2019	454.4	598.8	▲144.4	47.0	142.0	▲95.0	50.7	220.4	▲169.7	54.7	104.7	▲50.0
2020	383.3	565.0	▲181.7	42.1	143.2	▲101.1	51.9	170.4	▲118.5	50.4	101.8	▲51.4
2021	512.5	682.3	▲169.8	54.7	177.7	▲123.0	69.3	239.5	▲170.2	74.1	117.2	▲43.1

(出所) 各省・自治区『統計年鑑』各年版、中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

<遼寧省>

2021年の遼寧省の対外貿易は、輸出入総額が前年比26.0%増の1194億8000万ドルで、そのうち輸出が同33.7%増の512億5000万ドル、輸入総額が同20.8%増の682億3000万ドルであった。貿易収支は169億8000万ドルの赤字で前年比6.5%の減少となった(表1-3-1)。さらに、貿易方式をみると、輸出総額に占める一般貿易の割合は57.1%、加工貿易は37.4%であった。輸入総額に占める一般貿易の割合は74.6%、加工貿易は13.3%であった⁹。

輸出はアジア向けが全体の60.7%を占めており、日本向けの輸出は全輸出の18.0%で、韓国向けは9.5%であった。欧州向けの輸出は全輸出額の18.3%を占めており、EUへの輸出は全輸出の13.2%、ロシアへの輸出は2.3%であった。北米向けの輸出は全輸出の11.2%で、米国への輸出は9.8%であった。ラテンアメリカへの輸出は全輸出の5.5%、アフリカへの輸出は全輸出の2.5%であった¹⁰。

<吉林省>

2021年の吉林省の輸出入総額は232億4000万ドルで、前年に比べて25.4%増となった。そのうち輸出は同29.9%増で54億7000万ドル、輸入は同24.1%増の177億7000万ドルとなった。貿易方式で見ると、輸出総額に占める一般貿易の割合は77.3%、加工貿易は21.0%であった。輸入総額に占める一般貿易の割合は95.6%、加工貿易は2.3%であった¹¹。

<黒龍江省>

2021年の黒龍江省の輸出入総額は、前年比38.9%増の308億8000万ドル、そのうち輸出が33.5%増の69億3000万ドル、輸入が同40.6%増の239億5000万ドルであった。貿易方式で見ると、貿易総額に占める一般貿易の割合は83.2%、国境少額貿易が10.6%、加工貿易が3.9%であった。貿易主体をみると、国有企業の輸出入総額は前年比45.6%増、民営企業は16.9%増、外資企業は2.3%減となった。さらに、輸出品目を見ると、機械・電気製品は前年比11.7%増加し、黒龍江省の輸出総額の39.2%を占めている。ハイテク製品の輸出は前年比45.1%増、輸出総額の17.1%を占めている¹²。

<内モンゴル自治区>

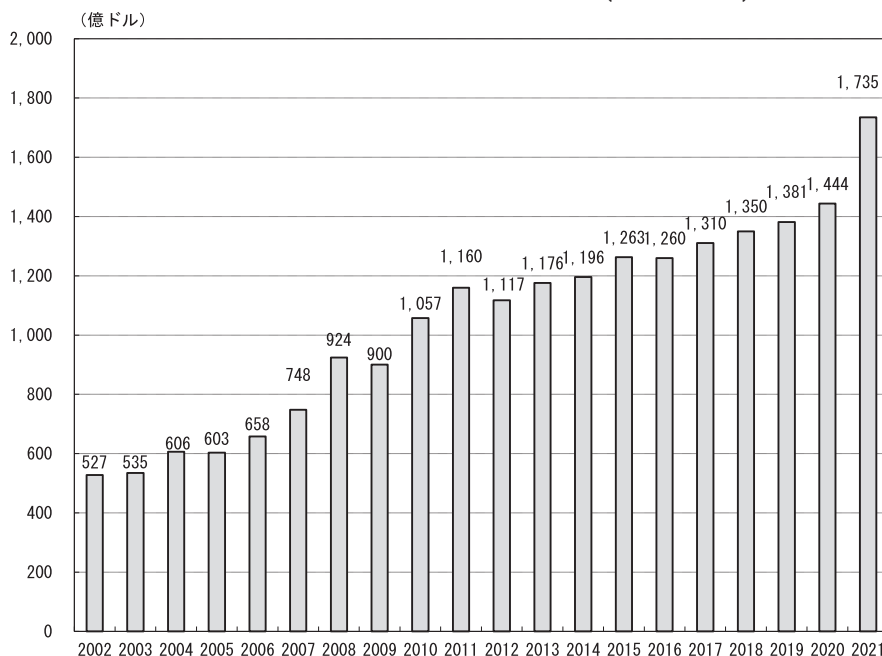
2021年の内モンゴル自治区の輸出入総額は、前年比25.7%増の191億3000万ドルで、そのうち輸出が、同47.0%増の74億1000万ドル、輸入が同15.1%増の117億2000万ドルであった。貿易総額に占める一般貿易の割合は65.2%、国境少額貿易の割合が16.6%、加工貿易の割合は5.5%であった¹³。

(2) 外国投資

① 全国

2021年に中国が受け入れた外国直接投資（金融分野以外）の新規認可件数は、対前年比23.5%増の4万7643件で、外国直接投資受入額（実行ベース）は同20.2%増の1735億ドル

図1-3-2 中国の直接投資受入額の推移(実行ベース)



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2022年版より作成

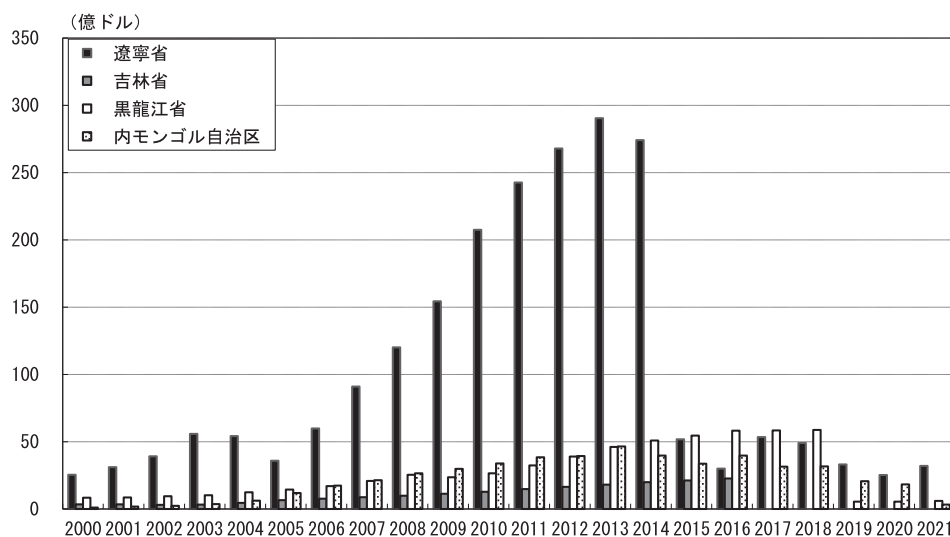
となった(図1-3-2)。そのうち「一帯一路」沿線国家の外国直接投資新規認可件数は5336件で、24.3%の増加となり、投資額は112億ドルで、同36%増となっている。最も対中投資の多い地域を投資額順で見ると、香港が圧倒的に多く、シンガポール、イギリス領バージニア諸島が50億ドル以上、韓国、日本、米国、ケイマン諸島、ドイツの順に続く。

他方、2021年の中国による対外直接投資(金融分野以外)は対前年比3.2%増の1136億ドルであり、対中直接投資額を下回っている。そのうち、「一帯一路」沿線国家で達成した対外直接投資額は203億ドルで、対前年比14.1%増となっている。業種別では、製造業が対前年比7.9%減の184億万ドル、不動産が同8.8%減の24億9000万ドル、リース・商業・サービス業は同12.4%減の366億2000万ドル、卸売・小売業は同9.8%増の176億5000万ドル、交通運輸・倉庫・郵政業が同92.5%増の51億ドル、情報メディア・コンピュータサービス・ソフトウェアが同12.2%増の75億3000万ドル、電力・天然ガス・水生産供給業が同75.9%増の48億9000万ドルであった¹⁴。

② 東北地域

遼寧省の2021年の実行ベース外資利用額は同27.1%増の32億ドルであった。吉林省は2021年間の実行ベース外資利用額は前年比16.7%増であった。黒龍江省の実行ベース外資利用額は6億ドルで、前年比10.8%増であった。そのうち第一次産業は8.1倍の942万ドル、第二次産業は18.3%増の3億8355万ドル、第三次産業は4.2%減の2億992万ドルであった。内モンゴル自治区の実行ベース外資利用額は3億2000万ドル、前年比4.4%増となった。

図1-3-3 東北三省および内モンゴル自治区の直接投資受入額の推移(実行ベース)



(出所) 各省・自治区『統計年鑑』2021年版、遼寧省統計局『2021年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月、黒龍江省統計局『2021年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年2月より作成

(注) 2017年-2020年、吉林省は直接投資受入額を公表していない。

- ¹ 2年間の平均成長率は、2019年同期を基準とし、幾何平均で計算した成長率である。
- ² 中国国家统计局ホームページ (<http://data.stats.gov.cn>) より。
- ³ 国家统计局『中華人民共和国2021年国民経済和社会発展統計公報』2022年2月28日より。
- ⁴ 遼寧省統計局『2021年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月より。
- ⁵ 吉林省統計局『吉林省2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年6月より。
- ⁶ 黒龍江省統計局『2021年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月より。
- ⁷ 内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年2月より。
- ⁸ 海関総署『2021年12月進出口商品国別（地区）総値表（美元値）』より。
<http://www.customs.gov.cn/customs/302249/zfxgk/2799825/302274/302277/302276/4127455/index.html>（2022年10月18日最終確認）
- ⁹ 中国統計摘要2022年版、及び遼寧省統計局『2021年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月より。
- ¹⁰ 中国統計摘要2022年版、及び遼寧省統計局『2021年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月より。
- ¹¹ 吉林省統計局『吉林省2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年6月より。
- ¹² 黒龍江省統計局『2021年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2022年3月より。
- ¹³ 内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2021年国民経済・社会発展統計公報』2022年2月より。
- ¹⁴ 国家统计局『中華人民共和国2021年国民経済和社会発展統計公報』2022年2月28日より。